

活躍する卒業生

同窓会発足10周年を迎えました。今回は、社会で輝ける者にスポットを当ててみました。様々な分野で活躍する卒業生をお伝えします。

戦う介護福祉士、 目指すは世界一。

平成22年3月 医療福祉学部保健福祉学科生活福祉専攻卒業
特別養護老人ホーム泉陵虹の苑 勤務
若山 立嗣

私は、医療福祉学部保健福祉学科生活福祉専攻を平成22年3月に卒業し、介護福祉士を取得しました。

大学では講義や介護技術だけでなく、施設などの実習で貴重な経験ができ、実習先の職員の方や大学の先生方のアドバイスで自分自身を成長させることができました。また、学習以外の面でも先生方に自分自身の夢を親身になって相談に乗っていただいたり、応援していただいたのが今の自分に繋がっています。というのも、大学時代の目標として介護福祉士の取得と共に、幼い頃からの夢であったプロキックボクサーになりたいと考えていたのです。



大学2年生(平成19年)でキックボクシングのプロライセンスを取得しましたが、大学の友達との遊びや勉強を言い訳にして練習をサボった事もありましたし、今思えば、プロ選手としての覚悟や努力が足りなかったと感じます。

卒業してからは介護職に就き、キックボクシングとの両立を行っていましたが、プロの成績は負けが多くなり、途方に暮れる事もありました。そんなとき、施設の利用者から「若いんだから負けたくないんだよ。いつでもやり直さなくよ。」と声をかけていただいたのが心に残り、夢であったチャンピオンを本気で目指そうと思い、施設を退職しました。その後、アルバイト等で生計を立てていましたが、縁あって知り合いの方に現在の施設を紹介して頂き、昼間は非常勤で働きながら、夜間にキックボクシングの練習に打ち込む事ができました。

そして努力が実り、今年の5月6日、後楽園ホールで行われたJ-NETWORKスーパーフライ級タイトルマッチで4ラウンドKO勝利を収め、念願であったチャンピオンになりました。私はさらに世界チャンピオンを目指し頑張っています。在学生の皆様も夢に向かってお互いに頑張りましょう。



PT人生、 はや10年、まだ10年

平成15年3月 医療福祉学部リハビリテーション学科理学療法専攻卒業
社会福祉法人 秀峰会 訪問看護リハビリステーション 樺の大樹 勤務
桂 理江子

「国試のために勉強するのではなく、将来、PT になったあなたを待っている患者さんのために勉強しないさ!」国試の一ヶ月前、先生がおっしゃった言葉です。今でも患者さんと出会うと、「あのときがあるから、このご縁が生まれた」と感じる事ががあります。

理学療法士になって色々な出会いがありました。

世界の人はどんな生活をしていて、どんなリハビリを必要としているのか、という好奇心を持つようになったのも、協力隊でチュニジアに派遣された職場の先輩の影響でした。

就職して5年目のときに青年海外協力隊に応募し、中国で活動しました。北京オリンピックが開催され、経済成長のまった中国にいた中国ですが、都市と地方の格差は大きく、日本で「普通」と思っていたリハビリは通じませんでした。無いものばかりが気になってしまい、自分のいる意味が見いだせなくなっていたとき、患者さんが「(リハビリの)治療をしてくれて! あなたにも感謝するけど、あなたのご両親に感謝します。あなたをこのように育て、こうして中国に来ることを理解してくれている方だから。こういう交流がもっと増えたいね。」という言葉をかけてくれました。足りないものではなく、今「ある」ものに感謝する、という姿勢に気づかされ、また家族の存在の大きさを感じた言葉です。

現在は訪問の仕事をしています。病院を退院した後の生活をどのように過ごしているのかという疑問からスタートしましたが、利用者さんの今の生活は何十年も生きてきた集大成としてあるものです。「生活の場」に介入することの難しさと同時に、その人の人生の一部に関われていることにやりがいを感じながら日々車を走らせています。

はやいもので理学療法士になって10年。これからも訪れるであろう出会いに感謝し、いつでもスポンジのように吸収できる柔軟性をもちながら成長していきたいと思っています。



ひととの つながり

平成22年3月 医療福祉学部リハビリテーション学科作業療法専攻卒業
北福島医療センター勤務
山川 祐輝

私は現在、福島県伊達市にありますが北福島医療センターにて回復期リハOTとして勤務し3年目を迎えました。入職当初は震災による病院の半壊、放射線量が高い状況で迎え、決して楽な環境で始められない状況でした。現在では安定をとり戻し日々患者様と向き合う日々を過ごしています。

さて、大学生活では勉強の身が濃く、特に試験では友達と教えあひながらファミレスで勉強したことをよく覚えています。また、児童サークルでの活動により多くの子供達と触れ、縦横の繋がりも増え、その中で子供達の事を考え活動したことは今でも大切な経験です。多くの友達にも恵まれ、たくさんの思い出とともに充実した生活でしたし、現在でも学会や研修会で会うと元気をもらっている気がします。

そして、私の転機となった東日本大震災。私自身も被災者であり失い…先の見えない生活に恐怖さえ感じました。どうにか地元に戻り平和な街を眺め、自然と涙が止まらなかったことをよく思い出します。被災者となり支えて頂いた方々を思うと自分の無力さを感じ、始めたのが災害ボランティアでした。今度は避難者を精一杯支えようと地元でリーダーとなり当時800人を超える避難者の方々と向き合っていました。ボランティアをする上で何もなかった…そんな時やはり形となって現れたのは組織・チームを作るところからでした。統括することはこんなに難しいものなんだ…と改めて感じましたが、人と人のつながりをより強く、よりたくましい絆としていろんな方々と向き合う最高の機会でした。「ありがとう」「助かったよ」と頂く言葉はうれしいものです。

最後になりますが、私の作業療法士としての一番の幸せは、退院される時の患者様の笑顔や病棟に顔見せに来てくれることです。まだまだ「作業療法」とはと悩むことが多い日々ですが、患者様の笑顔や感謝されることが、更に自分を成長させてくれるものと信じています。



と き 今この時代を 生きる

平成8年3月 東北科学技術短期大学 建築設備環境学科卒業
有限会社 加藤建設設備 専務取締役
加藤 政和

現在、地元喜多方市の設備会社にて、現場や経営業務、そして仕事以外での活動に追われながらも充実した日々を過ごしています。東北科学技術短期大学の2期生として卒業し、17年経った今でも感じるのは、短大で過ごした日々が私の人生のベクトルに大きな影響を与えてくれたと自負しています。日々専門分野を学び得られた知識は言うまでもなく、サークルや研究室での経験・交流、そして友人達とのかけがえのない時間、就職活動での人間関係等、その一つひとつを大切に過ごせたからこそ今に活きていると実感しています。

今回、同窓会報への寄稿依頼は私が日々SNSにて投稿している、仕事以外の活動を恩師が読んでくれたからだと思うので、その辺を少し書きたいと思います。現在、私は仕事以外に地域の青年会議所(JC)に所属し活動をしています。JCを知らない人も多いと思いますが、地域づくり、人づくり等を行っている団体です。地域に向けた講演会を開催したり、青少年育成事業を行ったりしていますが、本年は数ある事業の一つとして「子ども絵画コンクール」と題し、被災した福島県の子どもの「夢」を描いてもらう事業を開催し、8000枚以上の夢の詰まった絵画が集まり展示を行いました。こういった事業を開催するにあたり大切なのは、事業の背景・目的も大切ですが、地域や人からの理解や協力、そして何より信頼が不可欠です。これは仕事でも同じ事が言えますし、仕事と同じくその事業単体で終わるのではなく、今後に繋がり様々な展開を生んでくれます。学業や仕事だけにとらわれず、様々な分野で活動することが仕事の発展にも繋がり、自分、そして会社を成長させてくれるものと私は思っています。

最後に、タイトルの「今この時代を生きる」これは私が昨年、JCの理事長時代にスローガンに込めた想いです。今、学生であれ、社会人であれ、今この時代を生きていく強い意志と、勉学や職場の自分だけの狭い環境だけではなく、地域を、日本を広く見渡せる視野を持って仕事や地域活動に励んでいかなければなりません。今後も母校が歴史を紡ぎ、益々発展してくれることと、在校生、卒業生の様々な分野での大いなる活躍を切に願います。

